

哲学と倫理

選 択

開講年次：1年次前期

科目区分：講 義

単 位：2単位

講義時間：30時間

■**科目のねらい**：いま「考えること」は危機に瀕している。声高に自己の主張を押し通そうとすることが幅を利かせようとしている。しかし古来人間は、そのような潮流に抗う力を学問という形で蓄えてきた。その力は、概念の明晰化と論証の緻密化から生まれる。この講義では、「哲学」と「倫理学」という名で蓄積されてきたその営みの一端を紹介し、現代の学問の基礎となっている哲学的概念について解説していく。講義で学んだ哲学的問題と概念の理解にもとづいて、自らの考えを適切に論じることができるようになることを目標とする。

■**到達目標**：①基本的な哲学的概念を理解する。
②それぞれの哲学者がどのような問いにどう答えようとしたのかを理解する。
③①と②の理解をふまえ、自分の考えを筋道立てて論じる。

■**担当教員**：

中島 孝一

■**授業計画・内容**：

- 第1回 インTRODクションー哲学は何を問題にするのか
- 第2回 プラトンのアイデア論
- 第3回 アリストテレスの目的論的自然観
- 第4回 哲学的自我の発見ーデカルト
- 第5回 表出する世界ースピノザとライプニッツ
- 第6回 カントの理性批判(1)
- 第7回 カントの理性批判(2)
- 第8回 人格と自由
- 第9回 自己と他者
- 第10回 フッサールの現象学
- 第11回 ハイデガーの存在論
- 第12回 他者のまなざしーサルトルとレヴィナス
- 第13回 他者の声ーレヴィナスとウイトゲンシュタイン
- 第14回 自由と正義
- 第15回 論文の書き方と考えるヒント

■**教科書**：指定せず。講義中に資料を配布する。

■**参考文献**：各テーマに即した参考文献を講義中に提示する。

■**成績評価基準と方法**：期末レポート(70%)と中間レポート(30%)に平常点を加算して評価する。

評価方法	到達目標			評価基準	評価割合(%)
	到達目標①	到達目標②	到達目標③		
期末レポート	◎	◎	◎	基本的な概念を理解し、個々の哲学者の考え方をふまえた上で、課題に関して筋道立てて論じることができること	70
中間レポート	◎	○		基本的な概念とその背景を理解していること	30
平常点	○	○		積極的な授業参加	10点以内で加算
出席				10回以上の出席	欠格条件

◎：特に重視する ○：重視する 空欄：評価に加えず

■**関連科目**：

■**その他(学生へのメッセージ・履修上の留意点)**：一人で闇雲に深いところまで潜るのは難しい危険さえある。だが、適切なガイドがいれば、その潜った先にある貴重な何かをつかむこともできる。考えるためのツールとその使い方は私が教えます。あとはあなた自身がどこまで深く考えようとする意志をもてるかです。授業中の質疑応答や議論は大いに歓迎しますので、積極的に参加してください。